

札幌タグラグビーフェスティバル 2011 開催要項

1. 開催目的：タグラグビーの面白さ楽しさを広い世代に知ってもらい、タグラグビーの普及、指導者の育成を図る。
2. 主催：北海道ラグビーフットボール協会札幌支部
3. 主管：北海道ラグビーフットボール協会札幌支部普及育成委員会
4. 後援：札幌市 札幌市教育委員会
5. 開催日：平成 24 年 2 月 12 日（日）
6. 会場：立命館慶祥高等学校体育館
北海道江別市西野幌 640-1
7. スケジュール（変更可能性有）
責任者会議 午前 9 時 00 分
開会式 午前 9 時 30 分～ 9 時 45 分
試合 午前 10 時 00 分～午後 3 時 00 分
閉会式、表彰式 午後 3 時 15 分～ 3 時 30 分
8. 競技規則：日本ラグビーフットボール協会タグラグビー標準競技規則に基づく大会規則に準ずる。一部ローカルルールを設定する場合がある。
9. 参加資格：大会当日中学生（日本の学期制による）以上であること。
10. チーム人数：登録 5 名以上 10 名まで。試合出場人数は 5 名。交代自由。一試合に必ず全員出場させること。
個人参加も可能とする（チーム分けは当日大会役員が行う）。
11. カテゴリー：
女子の部 男子の部（参加チームにより変更可能性あり）
12. 試合組み合わせ：参加チーム数により札幌支部にて決定し、後日各チームに連絡する。
13. 参加料：チーム 3000 円 個人 500 円 当日徴収
14. 傷害保険：各チーム及び個人で加入のこと。
15. 表彰：各カテゴリー1～3 位（変更可能性有り。）
16. 選手が怪我をした場合は各チームで手当てのこと。

※スケジュール、カテゴリー分け、表彰については、参加チーム数などによって変更となる場合がある。

参加申し込みは別紙申込書に所定事項を記入の上、平成 24 年 1 月 22 日必着で郵送、FAX、メールにて下記まで送付する事。

参加申し込み、問い合わせ先

〒060-1112 北広島市共栄 4 1 - 3 ピーエス工業株式会社

永山雅昭

TEL 011-373-2221 FAX 011-373-2222

携帯 090-1383-3612 E-mail fs-nagayama@psk.co.jp

札幌タグラグビーフェスティバル 2011
参加申込書

<コピー可>

受付 No	フリガナ チーム名		
参加カテゴリー	男子の部	女子の部	
	参加者氏名(フリガナ)	性別	年齢
1		男・女	
2		男・女	
3		男・女	
4		男・女	
5		男・女	
6		男・女	
7		男・女	
8		男・女	
9		男・女	
10		男・女	
大会参加にあたりチーム責任者として、大会規則を遵守し責任を持つことを誓います。			
_____年_____月_____日		チーム責任者	
住所: 〒 _____		都・道・府・県 _____ 市・区・町・村 _____	
電話番号: _____		携帯番号: _____ FAX 番号: _____	
メールアドレス: _____			

1. 参加者は日本の学期制による中学生以上で人数は5人~10人です。 ※参加可能最少登録人数は5名です。
2. 参加費: チームで参加の場合 3000 円、個人で参加の場合 500 円が必要となります (大会当日徴収)。
3. 個人参加の場合最下段のチーム責任者のところに個人名、住所、連絡先を記入して送ってください。
3. 傷害保険は各チームにて加入のこと。

《ご記入いただいた個人情報は今大会運営目的以外には使用しません。使用後は適切に破棄させていただきます。》

大会規則

1. 体育館を使用して競技を行うため、コートサイズは当日体育館の状況に合わせて設定する。
2. ボールは4号球を使用、空気圧は0.5~0.6kg/cm²で主催者が用意したものを使用する。
3. 1チームは競技グラウンド内にいる5名のプレーヤーと入替可能な5名以下のプレーヤーから成る。
4. コーチは試合中には負傷者の救助等でレフリーの指示があった場合以外に競技コート内に入ることはできない。試合中は競技コートサイドの主催者が指定する位置にてプレーヤーの管理を行う。
ハーフタイムに競技コート内に入り、プレーヤーに指示を与えることはできるが、試合中はプレーヤーに指示を出すことはできない。
5. 入替は何度でも可。入替のタイミングはポイント（トライ）後、もしくは負傷等でゲームが中断した時にレフリーが確認して正式な入替と認める。入替は帯同コーチがレフリーに申し出ること。
負傷により退場したプレーヤーがその試合に戻ることはできるが、出血している状態で戻ることはできない。
6. プレーヤーは運動に適した服装で、靴はゴム底の運動靴とする。
金属類（腕時計など）は身につけることはできない、髪留めはゴムのみとする。
タグは日本協会規定サイズ（50mm×375mm）とし、主催者が用意する。
7. 試合開始時、試合に必要なプレーヤー及び帯同コーチが揃わない場合、相手チームの不戦勝とする。
8. レフリーは正1名、副（アシスタントレフリー）1名とし、主催者が任命する。
正レフリーはコート内で判定することができる。
レフリーはその試合における唯一の事実の判定者であり、レフリーに対して抗議することは認められない。
9. 試合進行上、レフリーが悪質な妨害行為と判断した場合には、その行為を行ったプレーヤー、帯同コーチ、観客を退場させることができる。
プレーヤーの退場については入替プレーヤーを認めない、またプレーヤーの退場は当該試合のみ有効とし次の試合への出場は認める。
コーチ及び観客の退場は終日有効とする。
10. 負傷者のケアをするメディカルサポーターは主催者が任命し、自らの判断でレフリーの許可を得ずに競技グラウンド内に入るすることができる。
11. 試合中の給水はハーフタイム中のみとする。レフリーが認めた場合は試合中でも可能とする。
12. 試合時間の管理と、試合の記録を行う者は主催者が任命する。
13. 試合終了（ノーサイド）はプレーの切れ目ではなく時間によって区切られる。試合開始と終了の合図は時間係によって行われる。

競技規則

1. ラグビー精神の尊重

ラグビーは、ラグビー精神を尊重するプレーヤー、帯同コーチ、レフリー等関係者によって行われる。ラグビー精神に反する行為を行う者は、試合に参加することができない。

2. 試合開始前

双方のチーム代表プレーヤーがトスをし、勝った方が試合開始のフリーパス、またはサイドのどちらかを選ぶ。

3. 試合時間並びに試合の開始

試合時間は別途に定め、前半と後半でコートチェンジを行う。試合の開始並びに後半の開始はセンターライン中央からのフリーパスで行う。後半開始のフリーパスは前半開始のフリーパスを行わなかったチームが行う。

4. 接触行為の禁止

全てのプレーヤーは相手選手と接触をしないように努めねばならない。一切の接触行為並びに接触につながる行為をしてはならない。帯同コーチは、自チームのプレーヤーに接触行為並びに接触につながる行為を行わせない義務を負う。特に、以下の行為などは厳禁とする。

(1) ボールを持っている時

- 1) 防御側プレーヤーに対し、体当たりをする、あるいはハンドオフ、タグを取りに来た手を払うなどの接触行為。
- 2) 防御側プレーヤーとの接触を誘発する可能性のある行為。具体的には以下のような行為を指す。
 - ・待ちかまえている防御側プレーヤーに向かって、または接近して過度の速度で直線的に走る。
 - ・複数のプレーヤーが近接して待ちかまえている狭い間隙を、過度の速度で走り抜けようとする。
なお、選手間の間隙が狭いか否かはレフリーが判断する。
 - ・防御側プレーヤーとの接触が予見されるにもかかわらず進路、速度を変えないで走る。
 - ・タグを取られることが予見されるにもかかわらず、強引に直線的に走る。
 - ・タグを取られた後、停止・パスをしようとせずに前進する。
 - ・進行方向に背中を向けて走る、相手をかかわすために90度以上回転する。

(2) 防御する時

- 1) タックル、あるいは体を接触させながらタグを取る、タグを取った後相手プレーヤーと接触する等の接触行為。
- 2) ボールを持っているプレーヤーとの接触を誘発する可能性のある行為。具体的には次のような行為などを指す。
 - ・タグを取りに行く際に、自分からは遠い側のタグを取りに行く。
 - ・タグを取った後、ボールを持っているプレーヤーとの接触が避けられない体勢、速度でタグを取りに行く。
 - ・接触が予見されるにもかかわらず、進路や速度を変えずに走り、タグを取りに行く。
 - ・ボールを持っているプレーヤーの後方から抱きつくようにしてタグを取る。
 - ・ボールを持ったプレーヤーの進行方向に足を出す。
 - ・ボールを持ったプレーヤーの進路を、身体や足でふさぎながらタグを取ろうとする。具体的には、ボールを持ったプレーヤーと正対した際に、接触する直前までタグを取ろうとせずに前進したり、相手を逃げられないような状態に追い込んでタグを取ったりする等の行為を指す。
 - ・両手を広げて防御をする。
 - ・タグを取りに行く姿勢を取らずにボールを持っているプレーヤーに接近したり、ボールを持っ

たプレーヤーの前に立ちはだかったりする。

以上については、身体の接触がなく、体格、年齢関係なしに誰でも楽しくプレーできるというラグビーの理念を否定する行為である。試合中にプレーヤーが上記のような行為を行った場合、レフリーはプレーヤーに対し警告を行い、それでも同一プレーヤーが上記のような行為を繰り返した場合は退場させることができる。また、審判長は、同一チームに上記のような行為が頻繁に起きていると判断される場合には帯同コーチに対し警告を行い、それでも上記のような行為を行った場合は退場の処分を与えることができる。

5. フリーパス

- (1) [フリーパス] とはボールを持ったプレーヤーがその位置から動かずに、レフリーの合図で、自分より後方のプレーヤーにパスをすることである。
- (2) フリーパスが行われるときに、プレーヤー並びにレフリーは次のようにしなければならない。
 - 1) ボールを持っている側
フリーパスからの最初のパスをもらうプレーヤーはパスをする選手から 2m以内にいないといけない。走りながらパスを貰う場合はそのスタートする地点を 2m以内とする。
 - 2) 防御側のプレーヤー
防御側は速やかに 5 m下がらなくてはならない。
 - 3) レフリーは防御側の全てのプレーヤーが 5 m下がったことを確認してからプレー開始の合図をする。防御側が速やかに後退しない場合、時間を空費する行為として罰する。
- (3) インゴール及びゴールラインから 5 m以内のフィールドオブプレーではフリーパスは行われない。この地域でフリーパスが行われる状況が生じた場合、その地点と相対するゴールライン前 5 mの地点からフリーパスを行う [5 m フリーパス]。

6. プレー

- (1) 腰に 2 本のタグを付け、自立しているプレーヤーは、相手プレーヤーと接触もしくは接触を誘発しないかぎり、次の行為ができる。
 - 1) ボールを持って自由に動くこと。
 - 2) 自分の真横、もしくは自分の後方にボールを投げる [パス]。
 - 3) 空中にあるボールを捕球すること。
 - 4) 地面にあるボールを拾うこと。
 - 5) ボールを持っているプレーヤーのタグを取る。プレーヤーがタッチライン上、またはタッチラインの外にいても同様である。
- (2) プレーヤーは次の行為をしてはならない。
 - 1) 2 本のタグをそれぞれ左右の腰につけないでプレーする。
 - 2) ボールを持っていない相手プレーヤーのタグを取る。
 - 3) ボールを離れたときの位置より前方にボールを投げる [スローフォワード]。
 - 4) 保持している、または手に触ったボールを前方に落とす [ノックオン]。ただし保持しているボールを地面に着けただけではノックオンにはならない。
 - 5) 相手を交わす以外の方法でタグを取ることを妨げる。
 - 6) 相手のボールを奪う
 - 7) あらゆる種類のキック。
→罰：その地点で相手のフリーパス
- (3) ボールを持ったプレーヤーがタッチラインを踏んだり超えたりした場合、また、投げたボールがタッチラインに触れたり超えたりした場合は [タッチ] となる。再開はタッチになった地点から

相手側のフリーパスで行う。その際、ボールはタッチラインの外にいる、またはタッチライン上のプレーヤーが投げ入れる。

- (4) インゴール及びゴールライン前5 m以内で反則が起きた場合、相手側の5 mフリーパスで再開する。
- (5) ボールを持っているプレーヤーが故意にではなく転倒した場合、レフリーは、それにより相手の防御の機会が失われた、あるいは試合の停滞が生じる、さらにプレーヤーの安全が確保できないと判断した場合、速やかに試合を停止しボールを保持していた側のフリーパス（タグの回数は継続）を命じる。ただし、プレーヤーの安全かつプレーの継続に関係がないと判断した場合はこの限りではない。故意の転倒は悪質な妨害行為である。
- (6) 競技規則にない状況が起きた場合、レフリーは試合停止を命じ、停止直前にボールを保持していた側のフリーパスで再開する。

7. 得点〔トライ〕

- (1) 得点〔トライ〕は、左右の腰に1本ずつのタグを着け、ボールを持って自立しているプレーヤーが相手インゴール〔ゴールラインを含む〕に両足を入れることで得られる。ボールをタッチダウンする必要はない。トライによって得られる得点は1点である。
- (2) 次の場合は得点が認められない。
 - 1) インゴールでタグを取られた後、またはインゴール直前でタグを取られ、惰性でインゴールに入った。
→ボール保持側の5 mフリーパスで試合を再開する。ただし、タグの回数は継続する。4回目のタグが発生したら防御側の5 mフリーパスで再開する。
 - 2) スライディングや飛び込んでトライすること。
→罰：危険なプレーとみなし、防御側の5 mフリーパス。
- (3) ペナルティトライ
レフリーは防御側の反則行為がなければトライが与えられたと思われる場合は、〔ペナルティトライ〕を与える。
- (4) トライ後の再開
トライ後の再開はセンターライン中央からトライをとられたチームのフリーパスにて行う。ただし、トライの後、防御側が接触行為等の妨害行為をした場合、レフリーは当該プレーヤーに警告以上の処分を与えた上で、センターライン中央でトライをした側にフリーパスを与える。

8. タグを取る行為〔タグ〕

- (1) 〔タグ〕は防御側プレーヤーがボールを持っているプレーヤーのどちらかのタグを取ることで成立する。
- (2) タグが発生した場合、プレーヤーは速やかに次の行為を行う。
 - 1) タグを取られたプレーヤーは直ちに前進を止め、ボールをパスする。違反行為は〔オーバーステップ〕。
 - 2) タグを取ったプレーヤーはタグを相手に手渡して返す。タグを取られたプレーヤーはタグを腰に着ける。
→1) 2) に違反した場合の罰：その地点で相手のフリーパス。
- (3) タグが発生すると、タグを取られたプレーヤーがボールを離れた地点を基準として、ゴールラインに平行なオフサイドラインが生じる。オフサイドラインの前方にいる防御側のプレーヤーは速やかにオフサイドラインの後方に下がる。下がりきれない防御側プレーヤーはボールを持った側のプレーヤーがパスをしたり走ったりするのを妨げないようにする。

→罰：その地点に相対する防御側オフサイドライン上で相手のフリーパス。

(4) インゴールでタグが発生した場合、5 mフリーパスで再開する（タグの回数は継続）。

(5) タグを4回取られた地点で、攻撃権は相手チームに移る。再開は相手側のフリーパスで行う。

9、アドバンテージ

レフリーは反則が生じてもプレーを継続することができる〔アドバンテージ〕。ただし、プレーヤーの安全が確保できないと判断した場合は速やかに停止を命じる。レフリーはアドバンテージを与えた側が地域的、戦術的利益を得られたと判断したらアドバンテージを解消する。そうでない場合は直ちにプレーを停止し、反則のあった地点で反則をしなかった側にフリーパスを与える。